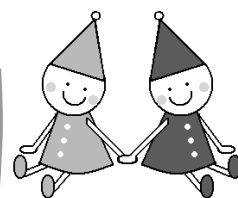


支援センターだより



2010.12.発行 vol.74

クリスマス・プレゼント

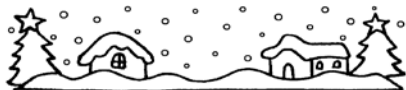
2010年のカレンダーも残すところ1枚となりました。毎年やってくる慌しい時期ですが、忙中閑ありでいきたいですね。

さて、今年に感謝できるとしたら何でしょうか。家族の健康が支えられてありがたうかしら。もし今年嫌なことがあっても、そのことも心の栄養にして、来年へジャンプ!!

元気村では、今年もいろいろなふれあいがありました。私はまず広場で出会えた親子さん達、相談に来てくださる皆さんの真剣な思い、そのような出会いの時間に感謝します。そしていつも朗らかな子ども家庭支援センターのスタッフ達。ファミリーサポートセンターにいらしてくださる方、提供会員の皆さん、明るくその方たちを迎え入れてくれるファミサポのスタッフ達にも心からありがたう。元気村の内外のお掃除をいつも心を込めてしてくださる方々、管理人さんありがたう。1階のあさやけさん、おだまきさん、シルバー人材センターさん、2階の市民活動支援センターさん、青少年センターさん、3階の教育相談室さん、これからもよろしくね。子ども家庭支援センター担当の児童課さん、元気村管理課の地域文化課さんありがたう。

こうして年が暮れていくけれど、まずは早めの Merry Christmas!! そして Happy New Year!!

元気村住人 両方 仁子



右の詩について

社会性涵養プログラムとして奈良少年刑務所内で童話や詩を使った情操教育授業がされている。この本の書名は、冒頭に載っている一行詩「くも」の「空が青いから白をえらんだのです」から採られている。

寮氏は言う、「このプログラムを引き受けたのは、細水統括（指導する方）の、受刑者たちの更生を願う深い愛情を感じたからだ。受刑者たちは、加害者であると同時に、この社会の被害者なのかも知れないと感じたから」と。そして私（両方）は、純粹な詩心と、心打つ魂の声が言葉となることに感動させられました。それが芸術の力（言霊の力）なのかと心打たれました。

五十二人の仲間のクリスマス
ごちそうを食べて ケーキも食べて
ゲームをやって 思いっきり笑って
プレゼントだって もらえるんだ
寝ているあいだに だれかが
こっそり枕元に置いていってくれるんだよ
それが サンタさんなのか 学園の先生なのか
ぼくは よく知らないけれどね



でも ほんとうにほしいものは
ごめんね これじゃない ちがうんだ

サンタさん お願い
ふとちよで怒りん坊の
へんちくりんなママでいいから
ぼくにちょうだい
世界のどっかに きっとそんなママが
余っているでしょう
そのママを ぼくにちょうだい
そしたら ぼく うんと大事にするよ

ママがいたら きっと
笑ったあとに さみしくならないですおと思うんだ

ぼくのほんとうのママも
きっと どこかで さびしがってるんだろかな
「しゃかい」ってやつに いじめられて たいへんで
ぼくに会いにくることも できないでいるんだろかな

サンタさん
ぼくは 余った子どもなんだ
どこかに さみしいママがいたら
ぼくがプレゼントになるから 連れていってよ

これからはケンカもしない ウソもつかない
いい子にするからさあ!

「奈良少年刑務所詩集 空が青いから白をえらんだのです」
（寮美千子 編・長崎出版）より

—詩はぜひ声に出して読んでみてください—